多様な学びで、人生に上昇気流を。

総合政策学部

このリーフレットでは、ゼミと卒論につながる少人数クラスの授業を中心に紹介しています。

2年生から、本格的に総合政策の専門科目が始まります。詳しくは大学案内誌をご覧ください。

NAP
Nanzan Asia Program

人を思いやりながら、協力することの大切さと喜びを体験できました！

1年生からのアジア滞在学習！
CHECK IT OUT!

NAP（Nanzan Asia Program）は、日本、アジア、そして世界を学際的かつ文明論的に考える短期海外研修プログラムです。
中国、韓国、タイ、フィリピン、台湾、マレーシア、ベトナムへの研修が可能です。

フィリピンNAPフィールドワークの様子と、報告会の発表の一部です。
<まちづくり>を主催しているNPOに協力し、町の中核にコミュニティーセンターを建てています。

4年間の集大成！卒業論文

完成したときの達成感は、忘れられない。きっとこれからの原動力になると思う。

主なテーマ

- ●ポストモダンの他者
- ●技術と倫理
- ●ネット社会からみる公共圏と親密圏のパラドクス
- ●現代における「正しさ」の在りか
- ●新規学卒者の早期離職問題に関する考察
- ●子どもの権利促進のための多層的取り組み
- ●21世紀における優れたリーダー像
- ●社会的弱者に必要となるメディア環境の防災対策
- ●NGOの法的地位　●EUサステイナブルシティ政策
- ●フランス労働情勢ならびに女性の職業生活について
- ●東アジア共同体構想実現に向けた政策論
- ●次世代自動車普及と政策の関連性
- ●一般廃棄物の排出とリサイクルの地域間差異と要因
- ●キッチンが不必要になる前に
- ●生存権論の歴史的展開を踏まえた今後の産業と課題

卒業
そして明日へ！

4年生

プロジェクト研究活動 A　公共政策　三輪ゼミ研究プロジェクトを紹介します

ゆりかごから墓場まで。社会保障の法制度を学び、分析する

三輪ゼミでは、3年次、4年次を通じて、子ども、女性、高齢者、障がいのある人のための法制度について学びます。そして、制度でカバーできるところ、そうでないところを分析して、そうでないところのために、私たちがどのように行動していけばよいかについて考えます。

社会保障の現場を知る、フィールドワーク

実際の現場を知るために、子どもたち・芸術家と一緒にお絵かきをしたり、お年寄りや障がいのある人が通ったり、暮らしたりする施設で介護体験をしたり、介助犬を訓練する施設などを見学したりします。

◀シンシアの丘(貝久手市)にて、介助犬にふれあいながら

4年次には、卒業論文の完成

法制度、現場の双方を知った上で、自分自身で問題を発見し、その解決へ向けての政策を考えます。これを各自が20,000字からなる卒業論文にまとめます。これまでに、ワークライフバランスや男性介護者の問題について研究した先輩がいます。

3年生

専門的な道具が手に入ると実感できるよ。

■方法論科目
総合政策外国語（英語・中国語）、統計解析、数量的アプローチ、空間情報分析法など、総合政策ならではの実践的方法論を学びます。

3年生から所属するプロジェクト研究（ゼミ）のテーマ例

●文 明 論
- ▶キリスト教文明の光と陰に関する歴史的・実証的研究
- ▶<自己と他者>論

●公 共 政 策
- ▶現代社会の特質理解に向けた社会学的探求
- ▶現代日本の社会と行政
- ▶日本企業のグローバルな事業展開と課題・展望
- ▶防災行政論
- ▶新たな個人と組織とのかかわり合いとキャリア・マネジメント

●国 際 政 策
- ▶グローバル化する国際社会における国家と市場の相互作用の解明
- ▶中国・台湾・朝鮮半島をめぐる学際的研究
- ▶成長促進と貧困削減のための政策研究
- ▶現代国際社会における役割と課題

●環 境 政 策
- ▶地域特性を考慮した環境・エネルギー・防災政策の構築を目指して
- ▶環境を守りたいという気持ちはどこから来るのか
- ▶環境配慮行動の促進と政策形成における市民参加・合意形成

行政や企業など他者との協働から学ぶプロジェクト研究は、まさに大学ライフの集大成。

自分の関心を明確にしなければ志望ゼミには入れないよ！

プロジェクト研究活動 B　国際政策　Potterゼミ研究プロジェクトを紹介します

国際的NGOの活動の参加

2009年から、3・4年生のゼミ生がInternational Coastal Cleanup（ICC）の世界海岸ゴミ清掃と調査活動に参加しています。NGOが主役となって世界と地方を結びつける運動の一環として、ゼミ生と町内会の方々が力を合わせ、伊勢市内の鷲ヶ浜で漂着ゴミの調査を行い、そのデータを日本ICC担当NGO「Japan Environmental Action Network」を経て世界本部を担当する「Ocean Conservancy」に提出。これによって私たちが記録したデータが、環境問題の意識向上と政策提言のために使われている日本全国および世界の漂着ゴミデータベースに貢献しています。

共同研究の成果

3年次ゼミ中心の共同研究は、一期生のゼミから定期的に学術論文や研究ノートとして投稿しています。最近の投稿を紹介します。
「日本における国際協力NPOの研究」（2012年）
「International Coastal Cleanup活動から見た伊勢市周辺海岸人工ゴミ問題」（2014年）
「Aid by Other Means: An Examination of Three NGO Subsidy Schemes」（2016年）

プロジェクト研究活動 C　環境政策　石川ゼミ研究プロジェクトを紹介します

事前調査から、企画実施、効果測定まで

石川ゼミでは、環境を守ることと地域経済が発展することを、どのように両立していけばよいか、ということを主に研究しています。単に、文献調査やデータ分析だけではなくて、ゼミ生自身の経験を通じて、社会課題の発見、解決につながるよう、積極的に課外プロジェクトを行っています。

楽しく真剣なゼミ室での時間

事業成功のため、毎日のようにゼミ室で会議や勉強会、作業を行いました。慣れない事ばかりで悪戦苦闘・・・。ときには休みを返上してゼミ室で作業することも！！

リサイクル陶器商品開発プロジェクトの企画実施

昨年度は、瀬戸市を代表する産業である窯業に着目。リサイクル陶器の商品開発プロジェクトを行いました。このプロジェクトは、関係者にヒアリングを行った上で問題点を洗い出すとともに、新たな購買層の獲得のために、新製品の開発、販売ルートの開拓などを行いました。

新製品の開発、販促、販売を学生の手で

新製品は、リサイクル陶器「緒-Tomo（おとも）」と名付け、20～30代の女性をターゲットとしたラインナップとしました。また、商品リーフレットやPVの制作、プレスリリースを行うなど、広報、販売促進に努めました。また、大学祭などで販売するだけでなく、瀬戸市内でも購入できるように、委託販売の交渉やネット販売も行いました。

リーフレットも制作し、販売促進。▶

行政への報告。マスコミ通じて大反響！

「Re瀬ッ戸」は、瀬戸市の助成金を得て実施されたため、その報告会にも参加しました。
実施報告書を作成したり、プレゼンテーションの準備をしたりと大変でしたが、皆さんに喜んでいただけて、大満足です。
「Re瀬ッ戸」の活動は、メディアでも大きな反響を呼び、様々な新聞やテレビ、フリーペーパーなどで取り上げられました。

1年生から4年生まで国内・海外で多彩な体験学習
政策研修・学外体験プログラム

■三輪先生（国内）
「過疎地域における地域再生のあり方を考えるプログラム」（宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町）

急激に人口減少が進むわが国のひずみを目の当たりにした、いわゆる限界集落と呼ばれる過疎地域の諸問題を発見し、地元NPO（五ヶ瀬自然学校）の協力を得て、地元再生に取り組む現地の若者や組織の活動に参加することで、次世代の社会のあり方を学び、私たちにできることを実践します。

■オコネル先生（国外）
「復興事業におけるインターナショナル・サービス・ラーニング」（ニュージーランド・クライストチャーチ市）

復興事業の実態を現地ボランティア活動に参加することによって、公共政策及び環境政策の取り組みを学びます。東日本大震災をはじめ、今後日本で起こりうる震災において政策立案や日本社会で活躍できるボランティア団体のあり方を考えます。

■藤本先生（国外）
「ベトナム・マングローブ植林プログラム」（ベトナム・ホーチミン市）

担当者が代表を務めるNGO（南遊の会）が、ホーチミン市農業農村開発局と共同で実施しているマングローブ林再生事業に参加・協力することを通して、マングローブ林の再生に貢献するとともに、環境政策と異文化間理解のあり方を学びます。

討論しながら勉強する面白さが味わえるよ。

1年生

大学での勉強が始まったんだと実感するよ。

■総合政策基礎演習
第一段階のAは、大学での勉強方法や基本的なアカデミック・リテラシーを、学部独自のテキストを用いてゼミ形式で学びます。
第二段階のBでは、現代社会の諸問題を取り上げ、それらを「総合政策学」的に解決するとは、どのようなことなのかを、各担当者の講義を通して具体的に考察します。。
第三段階のCでは、ディスカッションやプレゼンテーションの方法などを通して自分の意見を発表する力を養います。

■文明論
総合政策学で考える個々の政策を意義あるものにするには、現場となるそれぞれの社会の文化、伝統、価値観、行動様式への幅広い理解と洞察が必要です。それにはまず「価値の根源」について明確な答えを持たなくてはなりません。
「文明論」の授業では、理論と実践とをつなぐ「価値」の視点を身につけます。

Start!
総合政策学部へようこそ！